

◇平成29年度 南丹市学校自己評価書◇

【 南丹市立美山中学校 】

◎評価については、「A・B・C・D」の4段階表記とする。（A：十分な成果が見られた、B：成果が見られた、C：やや課題が見られる、D：課題が大きい）

評価領域	南丹市教育委員会「学校教育指導の指針」に基づいた実践の方向性		本校における課題に対する取組の具体的な達成目標	成果	達成度	課題	課題に対する次年度に向けた改善・克服・発展策
と（一）保幼小中色連携のある学校推進・園充実	「学校運営協議会」や「地域学校協働活動推進事業」の取組を通して、「熟議（目指す子ども像と課題の共有化）」等を生かした地域とともにある学校・園づくりの推進		○地域や地域の人と触れ合ったり、地域の行事に参加したり、ボランティアで活動したりして、地域のよさが実感できる・地域とともに学ぶ。 【目標：生徒アンケートにより、地域行事・ボランティアに年2回以上参加し、「参加してよかった」と肯定的な回答80%以上】 ○美山小学校の熟議に教職員が参加し、小中・地域連携の足がかりにする。 【目標：教職員1回以上参加し、教員アンケート「参加してよかった」と肯定的な回答90%以上】				
	言語活動の充実による「ことばの力」の育成		○総合的な学習の時間の取組（ふるさと学習[5・11月]・職場体験学習[11月]・聞き書き[8・11月]・土曜講座[10月～3月]）やアンビシャスタイム[年4回]、読書の集い[3回]など、地域の教育資源を生かした取組を進める。 【目標：生徒アンケート「美山についての理解を深められた、再認識することができた」と肯定的な回答70%以上、「自分にとって、よかった、参考になった」と肯定的な回答70%以上】 保護者・地域アンケート「地域と連携した取組を行っている」と肯定的な回答80%以上】 ○「輝きの時間」取組（小論文コンテスト）を全教職員で取り組み、思考力・表現力・言語力等の基礎を培う。 【取組：全教職員が6時間以上指導し、生徒全員が小論文を完成させて、府小論文コンクールに応募】				
（二）一人一人の能力を引き出し、個性を伸ばす教育の推進	学習指導	児童生徒の興味・関心を引き出し、学びの意欲を高める指導の工夫	○わかりやすい授業の実践と年間を通しての継続的な学習補充（数学）に取組、基礎基本の徹底を図る。 ○全教職員で、学習目標やねらいを明確に示した授業を行う。生徒が主体的に目的を持って学習に取り組みするための手立ての一つとして、全校的に実践する。また、全教科の授業で、言語活動を充実させ、筋道を立てて考える力や知識を活用する力を育成を目指した授業展開をする。 【目標：生徒アンケートにより、「授業がわかりやすい」と肯定的な回答80%以上】 ○タブレット等の活用を中心に、授業での情報機器の効果的な活用方法を研究する。 【目標：府学テの質問紙調査で「ねらいを提示した授業」の肯定的な回答の90%以上、年間3回の研究授業の実施】				
	キャリア教育	将来の夢や希望を育み、社会環境の変化に対応していく力と態度の育成（課題対応能力）	○全学年ともキャリア教育の視点で、大学・企業等での学習を行うことで、進路や社会に関する視野を広げる。（大学訪問11月、起業体験推進事業の取組） ○生徒に高校体験・説明会などへの積極的な参加を呼びかけるとともに、教員も積極的に高校の説明会に出席し、生徒と情報を共有できるようにする。（6月、11月） ○アンビシャスタイム講演会を開催し、高等学校三年生に高校生活や進路選択についての話を聞き、生徒の進路等を考える参考にする。 【目標：生徒アンケート「自分にとって、よかった、参考になった」と肯定的に回答する生徒80%以上】				
	特別支援教育	他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力や態度の育成（人間関係形成・社会形成能力）	○望ましい集団生活を通して、それぞれの個性を認め合い伸ばしていけるような学級活動の充実を図る。また、体育祭、文化祭などの学校行事に積極的に取り組むことによって、互いに協力することの大切さを学ばせる機会を持つ。 【目標：生徒アンケート「学校行事・生徒会活動・学級活動は充実している、自分の役割を果たしている」と肯定的な回答80%以上、QUアンケート学校生活意欲プロフィール全国平均以上、保護者アンケート「学校行事・体験活動等充実した学校生活が送れるよう工夫している」と肯定的な回答80%以上】				
教か視（三）育な点人への間を踏まえて進むべき道を育む	生徒指導	生徒指導の3機能（自己存在感・共感的人間関係・自己決定）を生かした校・園内における指導機能と相談機能の効果的な発揮	○校内委員会を定期的に開催し、生徒の状況把握と評価を行い、個に応じて適切な指導を進め、保護者との連携をより密にする。 ○個別に支援が必要な生徒がいる学級の授業に、全校体制での支援体制をつくり、意欲的に学習にとりくめるよう、困り感が少しでも解消できるようにする。必要に応じて、巡回指導が受けられるよう関係機関と連携を図ったり、発達検査等を実施し、生徒の特性や状況を的確に把握し対応する。 【目標：生徒アンケート「学校は楽しい」と肯定的な回答90%以上、保護者アンケート「学校へ行くのを楽しみにしている」と肯定的な回答80%以上】				
	教職員の使命と責任	教職員相互の連携・協働体制の確立 日々のOJT（on the job training）による職務遂行能力の育成	○QUアンケート・いじめアンケートや教育相談等を活用し、ソーシャルスキルトレーニング等の学習も積極的に取り入れて、人間関係トラブルの解消やいじめの未然防止に取り組む。また、生徒との関係づくりや生徒理解を図るツールとして、教員の指導力の向上に役立つ。 ○学校生活の充実・改善やリーダー育成の育成を図るために、各学年と分掌が連携をとって、学級活動や生徒会活動が生徒自らが主体的に取り組めるものにする。 【目標：生徒アンケート「いじめ・嫌がらせのない学校である、好ましい人間関係が築けている、頼りにしてくれる友達がいる、人のために力を発揮したことがある」と肯定的な回答90%以上、QUアンケート学校生活意欲プロフィール全国平均以上】				
ち（四）促す豊かな学力の向上	教職員の使命と責任	教職員相互の連携・協働体制の確立 日々のOJT（on the job training）による職務遂行能力の育成	○会議の目的・内容を明確にし、分掌会議・学年会議・運営委員会が計画的に開催できる時間を保障する。会議資料を事前に配付するなどの工夫をし、短時間でより効果的な会議を行い、勤務時間の効率的・効果的な活用ができるようにする。 ○組織的な指導体制がとれるように教職員が「報告・連絡・相談」を意識して行動することを通して、すべての生徒の内面理解に努める。 ○教育目標・方針をよく理解して、各教科における授業力の向上と指導力の向上を図ろうとする気運をさらに高めていく。				